

令和6年度第1回宇部市子ども・子育て審議会 議事録

■開催日時・場所

令和6年6月20日（木）18時30分～20時10分
宇部市総合福祉会館 4階 大ホール

■委員（16名）

出席 13名
欠席 3名

■次第

- 1 開会あいさつ
- 2 議 事

- (1) 「子育てプラン・うべ（第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画）」の進捗状況について
- (2) 「宇部市こども計画」策定に係るアンケート調査について
- (3) 「常盤通りにぎわい交流拠点利活用事業」の基本設計について
- (4) その他

■議事内容

(1) 「子育てプラン・うべ（第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画）」の進捗状況について

○事務局

（資料1について説明）

○会長

今の説明について、何かご意見、ご質問はありますか。

○会長

4ページの養育支援訪問事業について、担当される職員が変更になったことで見込みより実績が減少したとのことだが、具体的に、以前課内に配置されていた専門職員の職種は何か。

○事務局

子ども支援課では、看護師を臨時職員として配置していた。現在は、地域に地区担当保健師等の専門職を配置しているため、それぞれの担当地区で特に養育支援が必要な家庭に対し支援を行っている。

○会長

専門職の変更があったということだが、おそらく地区担当の保健師の業務はこれだけではないと思う。例えば、業務量の関係で対応が難しくなり実績が減少したということはあるか。

○事務局

子ども支援課の職員が市内全てを訪問するよりは、普段から地域と関わっている地区担当保健師が支援する方が効果的ではないかということで、現在の形になっている。地区担当はほかの業務も担当しており、負担はあると思うが、関係機関との連携が取りやすく、より効果的な支援が実

施できていると思う。

○会長

訪問する職員は変更になったが、訪問を希望される方が申込みをする部署は変わっていないということによろしいか。

○事務局

以前は申込制をとっていた。現在は、訪問を希望される方はもちろんだが、関わっている職員が定期的に訪問した方が良いと判断した方についてお互いの同意の上で訪問している。

○会長

宇部市では、窓口のワンストップ化を目指しているということだったと思うが、養育支援訪問事業が一つの窓口から各担当者にきちんとつながれているのか疑問に思いお聞きした。

○委員

6ページの在園児対象を除く一時預かり事業について、認可保育所7か所、幼稚園1か所とあるが、これは特定の園で固定化しているのか。

○事務局

今、確認できる過去3年間の資料では、基本的には特定の園となっている。

○委員

6ページの在園児対象を除く一時預かり事業について、認可保育所7か所、幼稚園1か所とのことだが、子育て支援拠点でも一時預かり事業を始めており、現状、受入れ人数が最大3人ではあるのだが、いっぱいになって申込みを断る状況が続くことがある。今後、一時預かりの需要はまだ増える可能性があると思うが、認可保育所7か所から増えていくのか、それとも、子どもの数は減っているので現状と変わらないのか、見通しを教えてください。

○事務局

一時預かり事業の今後の箇所数についてだが、現在、公立保育園では2か所となっている。私立保育園についてはそれぞれの事情があり、見通しを申し上げることは難しい。なお、受入実績はないが、1園は令和5年7月から事業を開始した。需要があれば今後も増える可能性はあると思う。

○委員

利用されているお母さんに話を聞くと、預けるのにハードルが高く、なかなかすぐには利用できないと言われる。受け入れる側もしっかり体制を整えないといけないと思うので、今後検討してもらいたい。

○事務局

国が「こども未来戦略方針」において「こども誰でも通園制度」の創設を掲げ、令和8年度からの本格実施に向けて取組が進められており、令和5年度から複数の自治体で試行実施がされている。こども誰でも通園制度は、月に最大10時間、保育の必要性がない子どもを保育所等に預けられるというもの。一時預かり事業と合わせ、宇部市においてもこれから検討していきたいと考えている。

○委員

学童保育事業について、4月から社会福祉協議会から移管を受けて、厚南地区でスタートした。今年度の登録者数は約170人だが、現状3教室しかなく、全員が来た場合、1教室60人は入れ

ない。ただ、現在3教室のところを4教室にすると、支援員が足りなくなってしまう。夏季休暇が始まっていないのでまだわからないが、登録者約170人が全員来てしまうと入らないのでどうしたものだろうか。また、学童施設の整備や設備等について、定期的な点検は行われているのかお聞きしたい。

○事務局

学童保育事業については、全体的に、子どもの数が減ってきているにも関わらず、利用登録者数は増加傾向にある。共働き世帯の増加が背景にあると思う。昨年度から、各学童保育クラブにアンケートを行い、設備関係も含めて要望をお聞きしている。このアンケートは毎年続けていく予定である。設備関係の要望があればそのときにお聞きできればと思う。また、緊急な修繕等が必要な場合は、適宜保育幼稚園課に連絡いただければ、現地確認に行き、必要があればすぐに対応する。厚南地区の現状については、利用者数がかなり増加傾向にあり、部屋数が少ないということはこちらも認識している。

○委員

毎月支援員たちとミーティングをしているので、一度、保育幼稚園課も参加していただきたい。

○事務局

厚南学童保育クラブについては、先月、現地に赴き、教室の不足だけでなくトイレのことなど様々な課題をお聞きした。市として、できる限りのことは対応していきたいと考えている。

○会長

保育園に通っていた子どもたちが一斉に学童期に入ったので、その子たちが今、本当に行く場所がなくなっている。保育士不足、幼稚園教諭不足等言われているが、学童の支援員も高齢の方が多く、学童期の子どもたちについていくのに苦労しているという話を聞く。子どもたちも成長して行って、必要になってくるものも時代とともに変わっていくと思う。学校と一緒に協力しながら、場所も人も新しい改善策が生まれていけば良いと思う。

○委員

5ページの子育て短期支援事業について、保護者の疾病等の理由により利用されるということで、とてもありがたいシステムだと思っている。利用者が増えた理由として、里親の方も加わったという説明があったが、制度の周知について、病院等の施設での周知は行われているのかお聞きしたい。また、利用者の疾病はどのようなものがあったのか、利用日数に限りはあるのか、長期でどれくらい利用された方がいるのかについてもお聞きしたい。

○事務局

まず、病院での周知という点では、山口大学病院等に周知のお願いをしているところである。

次に、利用日数についてだが、子育て短期支援事業には3つのタイプがある。まず、ショートステイという宿泊を伴うものは原則7日以内としている。2つ目に、トワイライトという学校が終わった夕方から夜間、おおよそ21時までのものがある。3つ目に、デイサービスという休日の昼間利用のものがある。基本的には、7日以上や長期になる場合は、県の児童相談所に一時預かりがあるので、利用者の家庭の状況によって、市の子育て短期支援事業を利用した方が良いのか、それとも県の児童相談所の方が良いのか、調整しながら支援をしているところである。

○委員

7ページの子育て短期支援事業についてだが、市の方針として、今年度の春休みから、春休み期間が長

くなるということで、地域の学童からも支援員の勤務が大変だという話を聞いている。また、昨年度から小学校の下校時刻が早くなり、学童保育の支援員も早くから勤務に入らなければならないということで、大変になっているのではないかと考えている。学校としては、働き方改革が進んで教職員にとってはありがたいことだが、一方で、こどもの居場所のことを考えると、学童には非常に大きな負担をかけていると考えている。また、保護者からは、学童は18時で終わるが、仕事で遅れてしまうため、学童で居残り保育をしてもらえないかという声も聞く。支援員の募集について、学童単位でしなければならないのか、それとも市で幅広く呼びかけてくださるのかをお聞きしたい。

○事務局

学童保育クラブへのアンケート結果でも、最も多い課題は支援員の不足である。市と学童保育クラブの両方で支援員の募集をしているが、平日は14時から、長期休暇期間中は朝8時からという不規則な勤務体系が、支援員が集まらない原因のひとつでもあると考えている。現在、解決策は見いだせていないが、支援員の募集については引き続き市でも呼びかけていきたい。

○会長

学生たちにもアルバイトの募集がくるのだが、各学童が単独で募集をされている印象である。学童保育は雇用の条件的に正規職員として勤めにくい職場であると思う。正規職員として、生活ができるような形での雇用条件や働き方を市全体として検討していただければと思う。

(2) 「宇部市こども計画」策定に係るアンケート調査について

○事務局

(資料2について説明)

○会長

今の説明について、何かご意見、ご質問はありますか。

○会長

1点確認だが、生活実態調査は、小中学校の全児童生徒、全保護者対象と理解してよろしいか。

○事務局

小学生については小学5年生全児童とその保護者、中学生については中学2年生全生徒とその保護者を対象としている。

○委員

小学5年生の全児童とその保護者ということで、回収については無記名で担任の先生に提出だと思うが、担任は提出物について全員提出したかどうかを普段からチェックすることが習慣となっており、無記名といっても実際はそうではない。もし可能であれば、答えたくない人は提出しなくて良いとした方が教員の作業的には負担が少なくなると思う。

資料2-2について。保護者1,500人を抽出して送付されると思うが、17ページの間43で「あなたは、宇部市の幼稚園・こども園の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか」とあり、この質問自体は良いと思うが、今現在どんなことに困っているのか、どんな要望があるのか、例えば子どもの学童保育や学校が始まる前、放課後の居場所について聞いていただき、保護者の方が本当に困っていることを施策に反映していただければ良いと思う。

○事務局

1つ目の質問について。小中学生に配布する調査票については、学校を通じて回収という形はとらずに、WEB回答のみにしたいと考えている。WEB回答が難しい方については、紙の調査票で回答していただければと思う。来週の校長会で、調査票の配布について依頼をさせていただく予定であるが、極力学校に負担をお掛けしないようにと考えている。

○事務局（事業者）

2つ目の質問について。調査票の質問については、国が示している調査項目に基づいて作成をしている。放課後の居場所や学童については、ニーズ量を出すための項目として入っている。学校が始まる前の居場所については、必要な項目であるかと思うので、ニーズ量を出すに当たってのものとは別の枠で追加するかを検討していく。

○事務局

補足だが、子育て支援に関するアンケート調査は、保育関係のニーズ量を出す仕様にはなっているが、保護者のニーズを知ることは必要であると思うので、ニーズ量を出す項目とは別建てで前向きに検討していきたいと思う。

○委員

子どもの生活実態調査の小学生票と中学生票の間2で、身長と体重を聞いているが、この設問は必要なのか。

○事務局（事業者）

答えにくい設問であるかと思うが、BMIの数値を算出し、他の設問とクロス集計をすることで生活状況と関係性があるのかを確かめるために設定しているもの。自由回答としており、必須としていないため、どうしても答えたくない方はお答えいただかなくても、アンケートの実施に問題はないと考えている。

○委員

答えたくない人というのは、体重等に問題がある人だと思う。そういう人が答えないとデータとしてどうなのだろうか。全員の身長と体重がないと意味がないのではないかと思う。

○事務局（事業者）

WEB回答を想定しており、回答フォームにおいて、それぞれの設問について必須か自由回答かを設定するのだが、必須にしてしまうと、この設問を答えたくない場合に、ここでアンケートの回答をやめてしまうことが考えられ、それを避けるために自由回答としている。

○委員

子どもの生活実態調査について、子どもも回答はWEBでということだが、学校で一斉に回答した方がいいのか。1人1台タブレットがあるので可能だが、質問量が多いので1時間はかかりそう。それとも、家に持ち帰ってそれぞれで回答することを想定しているのか。

○事務局

基本的には、自宅に持ち帰って回答していただくことを想定している。教育委員会に相談したところ、これまでもWEB回答の場合はそうしているとお聞きした。保護者のスマートフォン等を借りてということになると、純粋にその子の考えで回答することができるか、保護者の影響が及ばないかという点で不安はあるが、今回はそうさせていただこうと考えている。

○委員

子どもの生活実態調査の小学生票と中学生票の間10で「あなたは、休日の午後はだれと過ご

しますか」とあるが、どうして午後に限定しているのか。

○事務局（事業者）

誤りのため修正する。午後に限定しない。

○委員

子どもの生活実態調査の表紙、「お願い」の部分はこのままのデザインで配布されるのか。保護者が回答する子育て支援に関するアンケート調査の表紙にはかわいいイラストが入っているが、小中学生が回答する生活実態調査の表紙は、読み仮名は書いてあるが、文字ばかりで堅苦しい印象を受ける。また、「名前は書かないでください」とお願いの最後に書いてあるが、なかなかそこまで読まないのではないかと思う。WEB回答についてもどうなのかなと思うが、紙回収にすると先生方の負担も増えるので、ほかに良い方法はないのかと思った。

○事務局

調査票のレイアウトについては、子どもたちが回答しやすくなるように考えていく。

○委員

アンケートの結果から、宇部市の課題や強みを把握し、それらをどう施策に反映していくかを検討されていくと思うが、こども・若者の意識調査の最後にある「10年後の宇部市がどうなってほしいか」という設問が個人的にとっても良いなと思っている。普段、子育て世代同士が接するなかで、宇部市にいろいろ意見を言いたいと言う機会がないという話題になる。アンケートにおいて、それぞれの設問であてはまる状況を答えるというだけではなく、自由に意見を書く欄があるのはありがたい。ただ、最後にあり、多くの設問に答えて疲れていると思うので、自由意見を書きたくなるような工夫をしてほしい。

○事務局

こども・若者の意識調査については、15歳から39歳までの1,500人の方にお送りするが、市のウェブサイトでも自由に意見を言えるような仕組みを作る予定にしている。そのほか、市の公式LINEを活用しての意見聴取も行いたいと考えているので、ぜひそういった場でお寄せいただきたいと思う。

○委員

アンケートについて、大人が読んで回答していくのには全然問題ないと思う。しかし、子どもの生活実態調査の小学生票、最初のページのお願いにある「この調査結果を参考にして、みなさんのために宇部市が何ができるかを考えていきます」という表現などは、小学5年生には少し難しいように感じる。小学生にもわかるようにアンケートの目的を伝えなければいけないと思うので、例えば、先生方の負担にはなるが、アンケートを学校で配布する際に、アンケートの目的を先生の言葉で簡単に説明していただければ、児童も興味を持つのではないかと思う。アンケートの取り組み方について検討していただきたい。

○事務局

市としても、先生方にご協力いただいて、子どもたちがアンケートに答えやすい雰囲気を作ってもらえるとありがたい。来週、校長会があるので、その際に改めて校長先生に依頼させていただければと思う。

○会長

今、話を聞きながら、私だったらどうやって子どもたちにアンケートの目的を話すかなと考え

ていた。宇部市というと見えないものになってしまうが、子どもたちは人が見えた瞬間にずっとそこに心が寄せられると思うので、キャラクター等が話しかけるようなアンケートにしても良いのではないかと思った。

○委員

子どもたちがWEB回答フォームを見た瞬間に、回答をやめてしまいそうに思える。このアンケートは、文字を読むだけでも量が多いので、担任の先生の説明を受けながら教室で答えた方が子どもたちにとっても良いのではないかと思った。実際、いじめや性暴力など様々なアンケートがWEB回答で行われているが、回答率は100%ではない。多くの意見を回収しようと思えば、学校で時間を取った方が確実であると思う。時間の確保については、校長会で依頼していただきたい。

○事務局

子ども自身が答えるアンケートは、親の前では答えられないこともあると思うので、本来は親から離れたところで回答してもらうのがベストだと考えている。ただ、アンケートを学校で答えるとなると、先生方の負担という点で難しいかなと思っていたので、校長会でそういったこともお願いさせていただこうと思う。ご協力いただける学校があれば、教室での回答をお願いしたい。

○会長

子どもたちがアンケートに答えるという状況では、親に見せたくないパターンや学校の友達に見せたくないパターンなど、いろいろなパターンがあるため、一律にすることの怖さがあることには注意していただき、手法についてご検討いただければと思う。

(3)「常盤通りにぎわい交流拠点利活用事業」の基本設計について

○事務局

(資料3について説明)

○会長

今の説明について、何かご意見、ご質問はありますか。

○委員

施設の開館日、開館時間をお聞きしたい。

○事務局

開館時間は、施設全体は午前9時から午後9時まで、プレイゾーンについては午前10時から午後6時までとなっている。開館日は、1月1日及び12月31日を除く毎日。

○委員

施設は素晴らしいと思うが、これに伴う公共交通機関、駐車場の整備はどうなっているか。

○事務局

駐車場については、立体駐車場と平面駐車場を整備する。公共交通機関については、この場で答えするのは難しい。

○会長

人の流れができれば公共交通機関等も活性化してくるかなと思うので、まずは人の流れが止まらないような形を検討していただければと思う。

○委員

にぎわい交流拠点というネーミングはこのままなのか。

○事務局

愛称を募集する予定になっている。

○委員

完成後は児童たちが社会見学や施設見学に行くのだろうか。この施設を拠点に、宇部市の活性化が図られれば良いと思う。また、昨年の審議会でも発言したが、周辺部からも行けるように交通機関の整備をお願いしたい。

(4) その他

○会長

事務局から何かありますか。

○事務局

今回、かなりボリュームのあるアンケート調査票を資料としてお配りしたので、まだ見ることができていない部分もあるかと思う。ご意見等があれば、6月26日の午前中までにこども政策課にメールや電話でいただければ、その部分について検討させていただく。

○委員

こども計画のアンケートはものすごいボリュームがあるが、最終的にどのようにまとめられるのか。また、子育てプランの進捗状況について、目標に対して数字がどうだったかということだけで終わっている印象を受ける。課題の分析までされていると、審議がしやすいかなと思う。

○委員

こども計画策定スケジュールにあるワークショップは、どういった手法で行うのか。

○事務局

ワークショップの手法については、どういった形が良いか、事業者と検討している最中である。国が取りまとめている他自治体の事例を見ると、意外にも未就学児に意見を聞いている自治体が約1割あった。子育て支援センターが市内6箇所あるので、団体さんの力をお借りして未就学児の意見も聞いてみたいと思っている。

○委員

ワークショップをする際は、スーツ姿の方がいきなり来てもなかなか意見を言いづらいという話を聞くので、手法については工夫していただきたい。

○会長

ほかに何かありますか。

・・・特になし。

以 上